

インフルエンザ予防接種を受ける前に

インフルエンザの予防接種を受ける前に、パンフレットなどをよく読んで、接種の必要性や副反応について理解しておきましょう。わからないことなどがあれば、医師から説明を聞くようにしましょう。

法律に基づくインフルエンザの予防接種は、本人の意思に基づいて接種を受けるものです。接種を希望されるときに記入する「予診票」は、医師が予防接種することが可能かどうかを判断する大切な情報になります。接種を受けるご本人が責任を持って記入し、正しい情報を伝えるようにしてください。

【予防接種を受けることができない方】

- 1 明らかに発熱がある方
一般的には、体温が37.5℃以上の場合
- 2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
(急性の病気などで薬を飲む必要のある方は、その後の病気の変化が分からなくなる場合があります。)
- 3 インフルエンザ予防接種に含まれる成分でアレルギー反応を起こしたことが明らかな方
- 4 過去にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを疑う異常が現れた方
- 5 その他、医師が不適切な状態と判断した場合

また、以下に該当する場合は、接種を受ける際に医師とよく相談してください。

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、発育障害などの病気がある方
- ② 過去に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹、じんましん等のアレルギーを疑う異常が現れた方
- ③ 過去にけいれんを起こしたことがある方
- ④ 過去に免疫状態の検査で異常を指摘された方
- ⑤ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系の病気がある方
- ⑥ 鶏卵、鶏肉など鶏由来のものに対してアレルギーを指摘された方

《インフルエンザとは》

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染して起こります。インフルエンザにかかった人の咳やくしゃみなどでウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことで感染します。インフルエンザは、通常初冬から春先にかけて流行します。

典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、のどの痛み、鼻水などです。普通のかぜに比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴となっています。

インフルエンザは流行すると、特に高齢者の方や慢性疾患患者の死亡率が普段よりも高くなる点でも普通のかぜとは異なっています。

裏面もご覧ください。

《インフルエンザ予防接種の有効性》

予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が期待できる期間は5か月程度とされています。また、より効率的に有効性を高めるためには、毎年インフルエンザが流行する前の12月中旬までに接種を受けておく必要があります。

《インフルエンザ予防接種の副反応》

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常は2～3日のうちに治ります。また、僅かながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどが現れることがありますが、これも通常は2～3日のうちに治ります。

その他では、接種直後から数日中に、発疹、じんましん、かゆみなどが現れることがあり、また、非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などが現れることがあります。

症状が予防接種後副反応報告基準に該当する場合は、医師から（独）医薬品医療機器総合機構へ副反応の報告がされます。重い副反応を厚生労働大臣が予防接種に原因があると認定したときは、法に基づき健康被害救済の給付の対象となります。

《予防接種後の注意事項》

- 1 予防接種を受けた後30分間は接種会場で様子を見るか、接種医にすぐ連絡を取れるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- 2 入浴は差し支えありませんが、接種部位はこすらないようにしましょう。
- 3 接種当日は激しい運動は避けましょう。
- 4 インフルエンザ予防接種を受けても100%インフルエンザを予防できるとは限りません。うがい、手洗いをしたり、バランスのとれた食生活や適度な運動で体力づくりをする等、感染予防に日頃から努めましょう。

《その他》

予防接種の後、まれに先に述べた副反応がおこることがあります。また、予防接種と同時に、他の病気がたまたま重なって現れることがあります。予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱を持ってひどくはれたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などの症状が現れたら、医師（医療機関）の診療を受けてください。

問合せ先 府中市福祉保健部健康推進課 電話 042-368-6511
FAX 042-334-5549